

石川県七尾美術館だより

平成13年10月1日発行
編集・発行 石川県七尾美術館

第27号(秋号)



ISHIKAWA
NANAO
ART MUSEUM

「2001イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」より

「ドラゴンと7人のおひめさま」

レーナ・ルンメ(フィンランド)

展覧会紹介

平成十三年九月二十九日(土)～

十二月二十四日(月・振休)

休館日については裏表紙をご覧ください

「2001 イタリア・ボローニャ

国際絵本原画展」

九月二十九日(土)～十月二十八日(日)

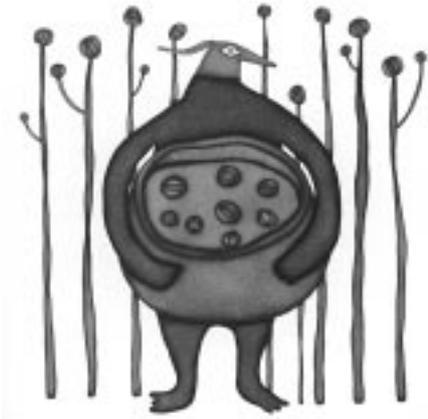
〔会期中無休〕

第一・第二・第三展示室

本展は、毎年イタリアの古都ボローニャで開催される国際絵本原画コンクール入選作品によるもので、世界各国を巡回します。

児童書専門の見本市である児童図書展の中に設けられているこの展覧会は、絵本作家やイラストレーターに登竜門として世界中から注目されています。

今年の世界五十九ヶ国千七百九十八点もの応募作品の中から厳選された、日本人十四名を含むフィクション部門の入選者九十二名の作品四百五十八点と、ノンフィクション部門で入選した日本人二名の作品十点を一堂に展示します。



木村晴美(日本)



「海岸の場面『泊まりにきた訪問者』より」
アンソニー・ブラウン(イギリス)



「まいごになつたりんご」
田中友美子(日本)

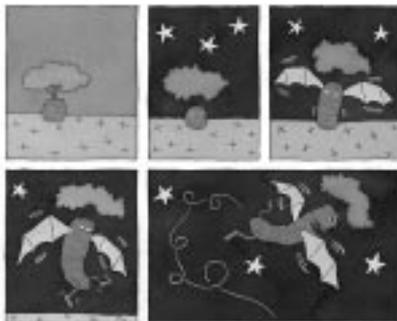
また特別展示として、二〇〇〇年の国際アンデルセン賞画家賞を受賞した、ゴリラの「ウィリー」シリーズで知られるアンソニー・ブラウン氏(イギリス)の水彩画十点も併せて紹介します。

毎年審査員が変わるため、昨年のはちよつと違ったタイプの作品が多く、子どもから大人まで充分お楽しみいただけます。

世界二十六ヶ国の作家たちが描いた、バラエティ豊かな絵本原画を心ゆくまで鑑賞ください。



「ぼく、生まれかわりたい」
シュテファニー・ローエ(ドイツ)



「野菜畑で」
ピエール・アベルノ
(フランス)

観覧料

	一般	個人	団体
大高生	700円	350円	600円
			300円

中学生以下無料・団体は二十名以上です。

- 第三展示室においてイタリアでのボローニャ展本展風景を紹介するビデオを上映します。審査員や入選者それぞれが絵本のイラストレーションに対し、どのような考えを持っているのかなどを紹介する興味深い内容です。
- 一階休憩コーナーや第三展示室横において、世界の絵本を自由にご覧いただけます。
- 毎年恒例となりました「子どもワークショップ」や「子ども映画上映会」も開催します。詳しくは五ページをご覧ください。

「加賀藩の御抱絵師
佐々木泉景・泉玄・泉龍展」

十一月九日(金)～十二月二十四日(月・振休)

第一・第二展示室

佐々木泉景は、安永二年(一七七三)大聖寺の永町で紺屋(染物屋)を営む佐々木家の長男として生まれました。幼名は熊次郎・愛之助と言ひ、雅号を泉景・彩雲・爲絢居士、諱は守継・守續とも言ひます。その素質は幼少の頃より目に留まり、五歳にして当時の加賀藩十代藩主・前田重教の御前にて画筆をふるつたと言われます。

泉景十代前半頃は、大聖寺において石田幽汀・石田友汀に学んだと言われます。しかし、十八歳の時には上京、江戸狩野派である探幽の流れを汲む探山を祖とする鶴沢探索・探泉親子に入門し、画技を磨きます。享和元年(一八一〇)、二十九歳の時に探泉の禁裏御用に参加を許され、屏風に描きます。これにより、その翌年三十歳で法橋位に叙せられ、姓も角鹿から祖先の旧姓である佐々木に改めるのです。



金沢市指定文化財 佐々木泉景筆
「双鶏図・秋草図」2面衝立(1面)
個人蔵



「群鹿図」6曲1双(右隻) 佐々木泉景筆 実性院蔵

大聖寺に帰った泉景は、後に加賀藩の御抱絵師として大作を手掛けていきますが、特にその契機となつたのが、文化五年(一八〇八)の火災により焼失し、復元された金沢城二の丸御殿内の障壁画制作です。江戸の狩野友益・狩野墨川親子、京都の岸駒・岸岱親子など錚錚たるメンパーと共に参加し、その多くの部分を担当します。実はこの



「足柄山吹笙図」1幅(部分)
佐々木泉玄筆 個人蔵

時には召抱えるといふ申し出を断っています、いずれにせよ十年後の文政二年(一八二一)には正式に御抱絵師となるのです。そして二年後、四十九歳の時に法眼位を拝受します。

その翌年、文政五年の竹沢御殿御造営に伴う御用では、長男の泉玄・次男の泉龍もはじめて参加し、一門の総力を結集して取り組みます。

その後、泉玄は天保五年(一八三四)に法橋位を拝受し、泉景の死後には跡目を相続、嘉永五年の四十八歳で法眼位に叙せられています。

一方、次男の泉龍は十五歳で竹沢御殿の御用に加わつた後、多くの加賀藩御用を勤め、嘉永五年(一八五二)に法橋位を拝受しています。

本展では、泉景の作品を中心に、泉玄・泉龍の作品を加え、約二十点を展覧します。



「武者風俗図」1幅
佐々木泉龍筆 個人蔵

観覧料

一般	個人	団体
500円	400円	
大高生	350円	300円

中学生以下無料・団体は二十名以上です。

第一・第二・第三展示室

第四十八回七尾市美術展覧会

十一月一日(木)～四日(日)
午前九時～午後五時まで
但し、最終日は午後四時まで

公募した市民の力作から厳選された入選・入賞
(日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真)六部門
の作品と、審査員・招待作家・無鑑査作家の作品
が展示されます。

入場料 無料
主催 七尾市文化協会
共催 七尾市・七尾市教育委員会
財団法人七尾美術館
後援 北國新聞社・ラジオななお
七尾市文化協会事務局
連絡先 ☎〇七六七(五三)〇五九六



昨年の七尾市美術展覧会風景

市民ギャラリー展覧会案内

石川県高等学校文化連盟
能登地区美術展

十一月十三日(火)～十五日(木)
午前九時～午後五時まで
但し、初日は午後十二時から
最終日は午後三時まで

能登地区の高校生の展覧会です。美術部・写真部・書道部の作品百三十点を展示します。内的必然性に基づくこと、追求するまなざしの堆積であること、形式化しないことを指標として活動しています。

入場料 無料
主催 石川県高等学校文化連盟
石川県教育委員会
七尾市教育委員会
後援 川崎 輝
連絡先 ☎〇七六七(五九)一〇六八

七尾能面展二〇〇一

十一月二十一日(水)～二十五日(日)
午前九時～午後五時まで
但し、初日は午後一時から
最終日は午後四時まで

能面の美しさに魅せられた能面打ち同好の諸氏十二人が相寄り、各自制作した能面約五十面を展示します。能面が出来るまでの解説等も予定しております。能面を身近にご観賞ください。

入場料 無料

共催 面匠会・能面打同好会
後援 北國新聞社・テレビ金沢
ラジオななお
連絡先 森多雪山(羽咋市)
☎〇七六七(二二)一二〇七

第六回洋画展NOTO

十一月二十八日(水)～十二月二日(日)
午前九時～午後五時まで
但し、最終日は午後四時三十分まで

現代を表現する能登の俊英十一名による洋画の発表展。能登の地に根ざして明日の洋画の進展をお互い切磋琢磨し研究・勉強中です。乞うご期待!

入場料 無料
主催 洋画展NOTO
後援 北國新聞社・ラジオななお
連絡先 洋画展NOTO 大地 統
☎〇七六七(五三)〇二〇七

第五十八回北國写真展 七尾展

十二月七日(金)～九日(日)
午前九時～午後五時まで
但し、最終日は午後四時まで

北陸では最古の歴史と伝統を誇る「北國写真サロン」は二十一世紀を迎え、名称を「北國写真展」と改めました。北陸の写真愛好家の皆さんから応募された作品から、全入賞作品と入選・無鑑査を抜粋して展示します。

入場料 無料
主催 北國写真連盟・北國新聞社
後援 石川県・北陸三県カメラ商組合
ラジオななお

連絡先 七尾鹿島支部事務局 中山吉郎
☎〇七六七(五七)一三四八

アートホール催し案内

中條久美子・酒谷広重門下生 ピアノ発表会

十月二十一日(日)

開演 午前十時

一年に一度開催している、幼児から高校生までの門下生による、独奏あり、連弾ありの発表会です。

入場料 無料

主催 中條ピアノ教室・酒谷ピアノ教室

後援 (株)開進堂楽器・(株)河合楽器製作所

連絡先 中條久美子

☎〇七六七(二二)一四二二

竹本由起子門下生

第五回ピアノ発表会

十一月四日(日)

開演 午後一時三十分

ピアノソロをはじめ、母子、姉妹によるピアノ連弾があります。また賛助演奏でソプラノ独唱があります。

入場料 無料

主催 竹本由起子門下生

後援 北國新聞社・ラジオななお

連絡先 竹本由起子

☎〇七六七(五二)七一七二

第六回 干場一葉門下生 ピアノ発表会

十一月十一日(日)

開場 午後一時

開演 午後一時三十分

年に一回開かれるピアノ発表会です。小学生から大人まで、ジャンルにこだわらずに演奏します。また、今回初めてピアノ三重奏にも挑戦します。

入場料 無料

主催 干場一葉門下生

後援 北國新聞社・ラジオななお

連絡先 干場一葉

☎〇七六七(七四)一三五二

第三回 アルブル クラシックコンサート

十一月十八日(日)

開場 午後一時三十分

開演 午後二時

ピアノの独奏と連弾によるコンサートで、今回は作曲者の生まれた時代をテーマとし、バッハの時代から近現代へと、年代順に演奏します。ピアノの豊かな音色をどうぞお楽しみください。

入場料 一、〇〇〇円

主催 アルブル

後援 洗足学園魚津短期大学・北國新聞社

エフエム石川・ラジオななお

北陸放送

連絡先 谷 栄美

☎〇七六七(五三)一一二四

● 当館主催の催し ●

ポロニーヤ展特別企画

子どもワークショップ (参加費無料)

「かんたん絵本をつくらうよ!」

日時 ポロニーヤ展会期中毎週土・日

午後二時

対象 三歳以上

(小さいお子様の場合は保護者一名様の同伴が必要です)

定員 各日十名(事前に予約が必要です)

会場 一階休憩コーナー

「雨でも楽しいかさづくり」

日時 十月十三日(土)・二十七日(土)

午後二時

対象 小学生以上

定員 各日十名(事前に予約が必要です)

会場 二階アートホール

子ども映画上映会 【アートホール・入場無料】

日時 十月十三日(土)・二十七日(土)

午後一時

「とうきちとむじな」(二十分)

「あれはだれ」(二十一分) 他

映画上映会 【アートホール・入場無料】

十一月十日(土)・二十四日(土)

十二月八日(土)・二十二日(土)

午後二時

「利休の茶」(約四十七分)

お申し込み・お問い合わせは

石川県七尾美術館

☎〇七六七(五三)一五〇〇

等伯にまつわる人々(その二)

〜長谷川等誉について〜

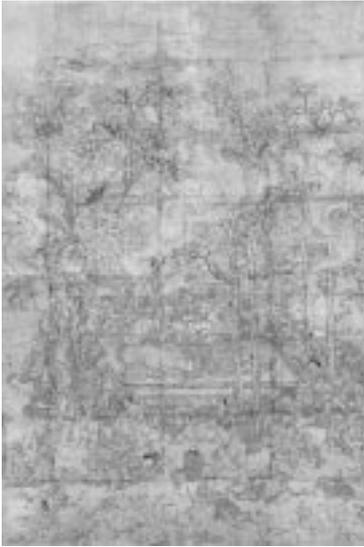
長谷川等伯のもとには、前回紹介しました四人の息子の他に、多くの弟子達がいたとされます。これまでの研究により、主殿、信吉、信雲、等胤、宗圓などの名前が紹介されていますが、記録が少なく、その生涯についてはほとんど不明です。さて、今回はその長谷川等伯の弟子といわれる人々より、地元である能登地方と関連が深い、長谷川等誉を紹介したいと思います。

長谷川等誉については七尾市・長寿寺の『過去帳』廿六日の項に
寛永十三正月絵師
等誉

長谷川

との記載があり、寛永十三年(一六三六)正月二十六日に没した事が判明していますが、等誉の生年については不明で、また、どのような生涯を送ったかについても解っていません。

しかしながら、現在、等誉筆とされる作品を見



「白描涅槃図」七尾・成蓮寺蔵



「十六羅漢図」(4幅の内) 個人蔵

ますと、そのほとんどが七尾を中心とした能登地方に所蔵されており、従って、能登地方を主な舞台に活躍していた事が考えられ、また、制作年を記載した作品が何点が存在している事から、大凡の活動時期を推測する事ができます。

さて、等誉の現存する作品としては、『白描涅槃図』(七尾市・成蓮寺蔵)、『涅槃図』(七尾市・本延寺蔵)、『法華経見返絵』(個人蔵)、『松杉檜図屏風』(羽咋市・妙成寺蔵)、『涅槃図』(鳥屋町・山田寺蔵)、『出山釈迦図』(個人蔵)、『十六羅漢図』(個人蔵)などが知られています。

この内、『白描涅槃図』は慶長四年(一五九九)、『涅槃図』は慶長十四年(一六〇九)、『法華経見返絵』は慶長十五年(一六一〇)に制作された事が落款などから解ります。この事により、等誉の活躍期は少なくとも慶長四年〜十五年を中心とした頃であったと考えられます。

ちなみに、等伯が没したのは慶長十五年ですが、ちよと『法華経見返絵』の制作年と同じです。つまり等伯の晩年と等誉の活躍期は重なっている事になり、もしかしたら等誉は一時期上洛して等伯と面会した、或いは直接絵を学んだという可能性もある訳です。

それから、『涅槃図』の裏面には「慶長十四年に奥村宗以を願主総代として、本図を本延寺に寄進した」旨が記されています。等伯の実家も奥村家であり、資料によれば、この奥村宗以という人物は等伯と縁戚関係にあったといわれます。そ

の奥村宗以が等誉に涅槃図を描かせている訳ですから、等誉が「長谷川」の姓を名乗っている事も併せて考えると、等伯一族と等誉は何らかの繋がりがあったのかも知れません。

冒頭で紹介した通り、等誉の現存作品については仏画が多い事から、若年時の等伯と同様に仏絵師だったのではないかと推測されますが、一方で『松杉檜図屏風』の様な金碧画も描いています。本図は金地を背景に、松の林・杉の林・檜の林がそれぞれ三箇所に分かれて群生している様子を描いた作品ですが、この様な観賞画は等誉の作品としては現在の所、唯一のもので、本図は等誉が幅広い作風を身に付けていた事を表す貴重な作品といえるでしょう。

この様に長谷川等誉については、解っている事が少なく謎の存在です。しかしながら、この能登七尾を主な舞台に活躍した、地元を代表する貴重な画家の一人である事は疑いようがありません。従って、当館としては長谷川等伯と共に、この長谷川等誉についても重要なテーマとして、今後とも調査研究をしていきたいと思えます。



「涅槃図」鳥屋・山田寺蔵

参考資料

- ・国華 九六八号、「長谷川等誉の作品」 河野元昭
- ・VISION 「加賀・能登歴史を彩った画家たち」
- 長谷川等誉」 北 春千代

夏の子どもワークショップ

本彫講座「子どもアーティスト誕生！」

★結果報告★

当館では、去る八月一日から八月十日まで夏の子どもワークショップ・本彫講座「子どもアーティスト誕生！」を開催しました。これは、この夏美術館を創作活動の場として、ふれあい空間の場として利用してもらおうと、地元作家さんを講師に招いて企画したものです。

初めての試みということで試行錯誤しながらの開催でしたが、みんな生き生きと制作して個性豊かな楽しい作品が仕上がりました。

A班はかわいい口グハウス風の家や、滑り台とピノキオ君、おしゃれなイスに木琴も作りました。家の中には家具もセッティングされていたり、木琴は叩くと微妙に音が違っていて面白い！なんとなく春のイメージになりました。

B班は先生のアドバイスを生かして、大型作品になりました。魚や蟹、イカや磯巾着にカモメも飛んでいて、夏を感じる素敵な作品です。虫たちがくつついた「虫のやかた」も、とっても楽しい雰囲気になりました。

C班は男の子らしい発想で、格好いいソリを作りました。大きいから小さいのまで、形や色を変えていくつも作りました。冬の来るのが待ち遠しいね。その他、机やイスや巣箱なんかも作ってくれました。

さらに今回は先生のご好意で、全員持ち帰り用の壁掛けを作りました。学校の宿題も出来ちゃって、みんな大満足！

普段なかなか使うことのないノミや彫刻刀、金槌にノコギリ。始めはおっかなびっくりだったけど、いつの間にか自然に彫刻刀で鉛筆を削っていて、感心しちやいました。また、最初は遠慮がち

だった子どもたちも、最後の方には先生や美術館スタッフと親子みたいな場面もあったし、手伝ってくださったおじいちゃんに、「ここ切って」「こここんな風にくつつけたいげんけど」と甘える姿がほえましかったです。

子どもたちには、これから先もこの夏の貴重な体験を生かしていつてほしいと思います。

今回、猛暑にも関わらず毎日指導にあたってくださった工芸家の瀧川千春先生、同じく毎日汗だくになって手伝ってくださったシルバー人材センターの中川達雄さん、坂口定雄さん、本当にありがとうございました。



尚、子どもたちの共同制作作品は、十月二十八日(日)のポロニーヤ展最終日まで美術館エントランスに展示されていますので、是非ご覧下さい。

第二回 七尾美術館友の会

鑑賞の旅を終えて

昨年度、初開催し好評だった「友の会鑑賞の旅」。今年度は去る六月十六日に福井方面へ、三十一名の皆様のご参加を得て実施されました。

あいにくの曇り空でしたが、最初の見学地である朝倉氏遺跡資料館では、職員の方が丁寧に展示物の説明をしてくださいました。参加者の皆さんは真剣にお話を聞き、質問したり、とても勉強熱心！遺跡散策中に小雨が降りだしてしまいましたが、皆さんは思い思いに復原町並みをはじめ庭園跡などを見学されていました。昼食は遺跡内「朝倉亭」にて、蕎麦・山菜料理からなる「朝倉貞景御膳」を食し、気分はまさに戦国武将。

次は七尾にもゆかりのある彫刻家・故高田博厚の作品が常設展示されている福井市美術館へ。学芸員の解説に再び真剣な表情で聞き入る皆さんの姿に感激、身のひきしまる思いがしました。同館喫茶室では参加者の交流もできて楽しかったですね。

ここに、改めてご参加の皆様のご協力と、各見学地でお世話くださった関係各位に深く感謝を申し上げます。

参加者の方から後日お寄せいただいた言葉を一部ご紹介させていただきます。

「大変勉強になった」
「美術館での見学時間がもう少し長いほうが良かった」
「初めて参加させていただき有意義な一日でした。」



参加者の皆様（朝倉氏遺跡にて）



冬の展覧会予定



第1・2展示室

「利家とまつ」特別展（仮称） ～前田氏と能登～ ～桃山の美術～

平成14年1月4日(金)～2月24日(日)

加賀百万石の祖・前田利家は天正9年（1581）に能登七尾城主となり、初めて国持ち大名となりました。そして、2年後に金沢に移るまで七尾を拠点に活躍しています。

本展では、「前田氏と能登」として能登地方に由来する様々な作品・資料を中心に展示し、利家を始めた前田氏と能登との関わりを紹介すると共に、「桃山の美術」として利家が生きた桃山時代頃の美術工芸品を、当館の所蔵品を中心に展示予定です。



重美「前田利家画像」（長齢寺蔵）

第1展示室

「春の優品展」 - 書と工芸を中心に -

平成14年3月2日(土)～4月14日(日)

当館で所蔵している能登ゆかりの現代作家作品の中から、今回は「書」と「工芸」に焦点を当て、約25点を展示・紹介します。



「新古今和歌集 春」
津田雪州

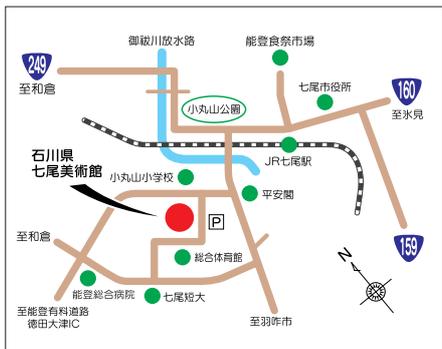
第2展示室

「石川県ゆかりの作家たち」

平成14年3月2日(土)～4月14日(日)

石川県は美術大国として知られ、全国レベルで活躍している作家が非常に多いことから、それを伺い知ることができます。

昨年開催しました「NOTO・21世紀の展望」に続き、本展では石川県在住の若手日本画家の中から、今後より一層の活躍が期待される作家に焦点を当て、約20点を紹介します。



交通案内

車.....金沢より能登有料道路
利用約1時間30分

タクシー...JR七尾駅より約5分

徒歩.....JR七尾駅より約20分

市内循環バス...JR七尾駅より西回りに
(まりん号) 乗車約6分

休館日のお知らせ

(10月～12月)

10月 29～31

11月 5～8、12、19、26

12月 3、10、17、25～31

次号・第28号（冬号）は1月4日発行予定です。